

部会でのこどもヒアリング概要

第5回 こどもの居場所部会	
令和5年7月31日(月)	資料1

目的

どのような場を居場所と感じているのか、またその場に何を求めているのかなどを通じて、こどもたちの視点に立った居場所づくりの視点や理念等を取りまとめることを目的とする。

日時

第5回こどもの居場所部会内（7月31日（月）16時～18時
（参加するこどもとファシリテーターは15時20分に集合予定）

対象

- 7歳～30歳程度までのこども（25名程度）
- ー対象は、自分の居場所がある、なしに関わらない
 - ー特別なニーズや課題を持つこどもを含む
- 例：貧困、障害がある、社会的養護、外国ルーツなど

募集方法

- ① こども若者★いけんぷらすより募集
- ② ヒアリングに協力いただいた関係団体より募集

ヒアリング 内容

- こどもたちはどこ・何に「自分の居場所」を感じ、その居場所に何を求めているのか？
- * 下記観点は踏まえつつ、質問例として掲載（その場の意見や回答によって、変化するものとして想定）
- 【居場所づくりへの視点・要素】
- 自分にとっての居場所だと感じる、場や人などはある（いる）か？また、それはどんな場や人か？
 - その居場所では、どんな気持ち（感情）になるか？
 - その居場所では、具体的にどんなことをしているか？
 - その居場所を通して、自分にはどんな意味や影響がある（あった）か？
 - その居場所に、もっとこうであってほしいなど何かあるか？
 - 自分の居場所がないと感じるときは、どんな時か？
 - かつてあった自分の居場所がなくなったと感じた経験はあるか
- 【こどもの意見と居場所づくり】
- その居場所の中で、自分の意見を聴いてもらっていると感じているか？それはどんな場面で感じられるか？
 - 自分の意見を聴いてもらっていることで、どんな気持ちになるか？
- 【居場所へのアクセシビリティ】
- 住んでいる地域の中に、行ってみたいけれど、まだ行けていない場所はあるか？（居場所づくりとして行われている場など）
 - また、それはなぜ行けないのか？

部会でのこどもヒアリング概要

ヒアリング 実施者

各グループには、こどもの居場所部会の委員から選定したファシリテーター（青山委員、荒木委員、宇地原委員、小川委員、関戸委員）と、こども若者★いけんぷらすから選定したファシリテーターの2名を配置する。

ヒアリング 方法

- こどもたちを5グループに分け、こども家庭庁内で、対面で実施（予定）
- ヒアリング時間は45～60分を想定
- こどもの緊張感を軽減することや、意見をしやすい場づくりを行うため、ファシリテーターと参加するこどもは、部会開始1時間前に集まり、自己紹介やアイスブレイクを実施
- こどもたちが意見をしやすい環境づくりの観点から、ファシリテーター以外の委員は、各グループにセットされたマイクとカメラを通じて、オンラインにて参加（何か質問等ある場合には、ファシリテーターを通じて実施）。また、議事は非公開とする。
- グラウンドルールの設定や、当日なにかあった場合に相談できる人を配置し、意見がしやすい環境をつくる
- こどもへのヒアリング実施後、部会内での委員による意見交換において、各グループでどんな意見が出たのかについて概要を共有する。ただし、意見を共有する際には、事前に参加したこどもに許可を取った上でとする。
- 補助員の参加を認めるなど、障害のあるこどもの特性に配慮し、参加・意見のしやすい環境を整備する。
- グループなど人前で意見をすることが苦手なこどもに対しては、必要に応じて個別等で対応する。

その他

- 参加するこどもやファシリテーターには、部会前の事前説明として、当日の流れや想定している質問等を説明する。